

第3次自主行動計画（2016～2020年）

5年間の取り組み成果まとまる

2006年度から5年ごとに自主行動計画を策定し、その結果を公表してきました。このほど、第3次自主行動計画の5年間の取り組み成果と実績がまとまりました。2021年度からは、第4次自主行動計画に取り組んでいます。



3Rすべてに取り組む、ガラスびん

ガラスびんは容器包装リサイクル法対象の容器の内、唯一リユースが可能なため、リデュース・リユース・リサイクルのすべてに取り組んでいます。

ガラスびんの軽量化を進めるとともに、空きびんの収集・運搬・選別段階で発生するガラスびん残さの減量を働きかけ、カレット（再生原料）利用量を増やすことで天然原料の節減に努めてきました。

また、リターナブルびんは脱炭素社会の実現にも貢献できることから、ライフサイクル全体での環境優位性を普及啓発するとともに、びんリユースシステムの持続性確保のため、各関係主体との連携を図ってきました。

2020年実績値はコロナ禍の影響が

2020年は新型コロナウイルス感染拡大防止策として、飲食店に休業や時短営業、アルコール飲料の提供自粛などが求められ、他容器よりも業務用比率が高いガラスびんは大きな影響を受けました。このため、リデュース・リユース・リサイクルの各指標の2020年実績値に影響があると推察しています。

第4次自主行動計画では、資源の有効利用と循環の高度化に向け、「ガラスびんの優れた環境適性」を普及啓発するとともに、各関係主体とのさらなる連携深化と新たな関係構築を図っていきます。

第4次自主行動計画の3R推進目標は以下のとおりです。

■リデュース

1本当たり加重平均重量の2004年（基準年）対比1.5%の軽量化を図る

■リユース

ライフサイクル全体で環境面の優位性があるびんリユースに関する普及啓発に取り組むとともに、引き続

き関係主体との連携を図りながら、新たな関係構築を模索し、地域や市場特性に合わせたびんリユースシステムの維持に努める

■リサイクル

リサイクル率70%以上と資源有効利用促進法のカレット利用率目標値の76%を目指す

ガラスびんの3R推進に関する実績

【総括】第3次自主行動計画フォローアップ報告

約半世紀にわたる取り組みの中で
2020年実績は、着実な軽量化を達成

Reduce
リデュース

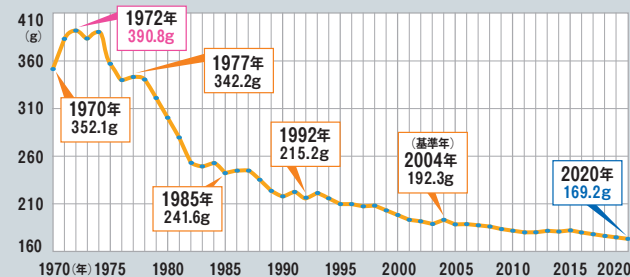
2020年の1本当たり単純平均重量は169.2gとなり、1972年比56.7%減を達成しました。比較的質量の重いリターナブルびんの減少や少容量びん増加、軽量化したガラスびんの他素材への移行などの影響も受けていますが、オイルショック以降、約半世紀にわたり軽量化は着実に前進しています。

自主行動計画の取り組みでは、単純平均重量で2004年(基準年)実績の192.3gに対し、2020

年実績は169.2gと12.0%(23.1g/本)軽量化。これにはびんの容量構成比の変化が含まれ、それを軽減した加重平均では2.2%の軽量化となります。2006年からの軽量化による資源節約量289,524トンとなり、2016年から2020年の5年間では92,366トンとなります。なお、それぞれの2020年実績値は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための飲食店の休業・営業時間短縮や酒類の提供自粛などによる業務用商品の激減の影響があると推察されます。

ガラスびんは製びん技術の高度化により軽量化されていますが、軽量化に貢献したびん商品が他素材に置き換わることや、ガラスびんの持つリユース適性、意匠性、質感、重量などが重視された容器の選択のされ方などが影響し、ガラスびん全体の軽量化は限界に近づいているといえます。

■ガラスびんの1本当たり単純平均重量の推移 (g/本)



■1本当たりの平均重量推移

	2004年 (基準年)	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
軽量化率 (加重平均)	—	▲1.5%	▲2.2%	▲1.2%	▲1.7%	▲2.2%
単純平均重量 (g/本)	192.3	179.1	177.2	174.8	173.5	169.2
単純平均軽量化指標	100.0	93.1	92.1	90.9	90.2	88.8
累積資源節約量 (トン)	—	214,657	239,474	252,442	269,606	289,524

2006年から2020年までに軽量化された品目

- ・小びんドリンク (8品目)
- ・薬びん (4品目)
- ・食品びん (47品目)
- ・調味料びん (71品目)
- ・牛乳びん (5品目)
- ・清酒びん (36品目)
- ・ビールびん (10品目)
- ・ウイスキーびん (5品目)
- ・焼酎びん (24品目)
- ・その他洋雑酒びん (39品目)
- ・飲料びん (23品目)

経年的な傾向と新型コロナ禍でリターナブルびんは減少
持続可能なリユースシステムの構築に取り組む

Reuse
リユース

リターナブルびんは業務用と家庭用宅配というクローズド市場を中心に存続していますが、その使用量は経年的な減少傾向にあり、2020年の使用量実績は47万トン(基準年比25.7%)となっています。その結果、2020年のびんのリターナブル比率(リターナブルびん使用量÷(国内ワンウェイびん流通量+リターナブルびん使用量))は30.1%となりました。これは、新型コロナ禍による飲食店の

休業や営業時間短縮、酒類の提供自粛の影響があると推測されます。

これまで地域型びんリユースシステム再構築と持続性確保のために、地域や市場特性に合わせた取り組みを強化すべく、消費者・自治体・流通/販売事業者やびん商等の関係主体による一層の連携を深める活動を行っています。新たな推進体制として2011年9月に立ち上げた「びんリユース



当協議会は2016年より「ガラスびん3R推進のための第3次自主行動計画」を遂行してきましたが、このほど、5年間のフォローアップ報告がまとまりました。第4次自主行動計画では、さらなる関係各主体と連携した取り組みが必要とされています。

推進全国協議会」と連携・協力し、「びんリユースの将来ビジョン」をとりまとめました。

一方、びんリユースシステムの維持・運営の要であるびん商の取扱量の大半が1.8L壺（一升びん）であるため、リユースびん全体の回収システムを維持・運営するためにも、関係他団体とも連携して1.8L壺の回収率を捕捉するとともに、回収率向上

に取り組んでいます。

また、2009年2月に立上げたWebサイト「リターナブルびんポータルサイト」にて、全国各地域でのびんリユースの取り組みを紹介。さらに、ガラスびんリユースの環境負荷削減効果を数値化する必要があると考え、ライフサイクル分析を行い、その結果を報告書としてまとめ、発表しています。

■リターナブルびんの使用実績（万トン）

	2004年 (基準年)	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2020年 基準年比
リターナブル比率 (%)	53.7	39.6	39.6	39.2	37.2	30.1	-
リターナブルびん使用量	183	84	83	78	70	47	25.7%
国内ワンウェイびん量(輸出入調整後)	158	128	126	121	118	109	69.0%

水平リサイクル率は、この5年間、横ばい傾向。 今後は収集・運搬方法と色選別の精度向上が課題に



ガラスびんは何度でも水平リサイクルが可能で、国内でリサイクルが完結しています。2020年のリサイクル率は69.0%。水平リサイクル率であるガラスびん用途向けリサイクル率は55.7%となり、2016年の57.2%から2018年の57.4%と安定して推移、2019年以降若干低下しています。これは、ガラスびん用途のリサイクルに向かないその他の色びんの回収量構成比が増加したことによりですが、2020年については新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響もあると思われます。

リサイクルされたガラスびんのうち、ガラスびん原料として再生利用された割合を示す指標である「びん to びん率」の2020年実績は80.8%と2019年か

ら低下していますが、ガラスびん用途に向かないその他の色びんの回収量構成比が増加したことにより。 「びん to びん」を推進するためには、家庭から回収されたガラスびんの自治体の収集・運搬方法と選別施設での色選別の精度がより重要となります。

当協議会では、環境省発表のデータを元に市町村ごとの人口一人当たりのガラスびん分別基準適合物引渡量を毎年度算定し、直近の2019年度（令和元年度）実績とともに、自治体へのガラスびんの収集・運搬方法等のアンケートの結果とクロス分析し、その結果もWebサイトに掲載しました。



■リサイクル率、びん to びん率、カレット利用率の推移 (%)

	2004年 (基準年)	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
リサイクル率 (再資源化率)	59.3%	71.0	69.2	68.9	67.6	69.0
ガラスびん用途向けリサイクル率	-	58.4	57.0	57.4	54.6	55.7
びん to びん率	-	82.3	82.3	82.2	80.7	80.8
カレット利用率	-	75.4	75.1	74.7	75.3	77.4

第3次自主行動計画
フォローアップ報告

詳しくはこちらから



お知らせ

掲載実績については、3R推進団体連絡会による「自主行動計画2020のフォローアップ報告」についての記者説明会を12月3日に経団連ホールにて実施しました。

北海道
名寄市

名寄市の概要（令和3年1月1日現在）

- 人口：27,059人 ●世帯数：14,397世帯 ●面積：535.20km²（平成26年10月1日改訂）
- 収集方法：びん単独収集（戸別収集およびステーション収集）
- 分別基準適合物引渡量：182,380kg（令和元年度：無色61,840kg、茶色79,260kg、その他の色41,280kg）

1人当たりの平均
ガラスびん資源化量

6.69kg

（令和元年度）

長年の啓発活動と市民の理解・協力で、高い分別品質を維持

名寄市ではガラスびんについて、平成5年からモデル地区約2,000世帯に、平成8年からは市全域を対象に分別収集を開始。モデル地区から始めたことで周知も徹底し、ルール変更にも大きな混乱は生じませんでした。3Rの認識ではリサイクルよりリユースがより望ましいと考え、リターナブルびんだけを別に収集してはいませんが、リサイクルセンターでの色選別の際に抜き取っています。

市民のみなさんにはびんのリサイクル、リユースについては高い意識で取り組んでいただいています。家庭で中を洗浄してから排出するよう周知しており、ニオイも異物の混入も少なく破損もほぼありません。名寄地区は戸別収集ですが、平成18年合併の旧風連町の風連地区は、町

内会が設置するリサイクルステーションで収集。その中で、名寄市ではダンプ車を使ってなるべくびんが割れないように収集することで、残渣は異物やキャップ等が中心です。収集用の市の指定袋は3種類（炭化ごみ用2種類、埋立ごみ用1種類）あり、資源ごみは任意の袋を使用しています。

今後は市民の皆さんを中心に環境衛生推進員や現場との連携のもと、資源ごみに関する普及啓発をさらに強化していきます。また小学校の社会科授業の一貫でのリサイクルセンターの見学も継続。これらの長年の啓発活動の取り組みが、より一層の意識と分別品質の向上へと繋がると確信されているそうです。

分別区分 びん単独



ガラスびんを単独収集。家庭で洗浄してから排出するよう周知しており、ニオイも異物の混入も少なく破損もほぼない。化粧品びんも収集を行っている

収集容器 袋



収集車両 ダンプ車



びんの収集は荷台後方の仕切りスペースを利用

選別手段 手選別



袋を破り、異物を除去し、色別に選別

INFORMATION

イベント出展のお知らせ

「エコプロ2021」に当協議会が出展。
2年ぶりに東京ビックサイトでリアル開催

持続可能な社会の実現に向けて

エコプロ2021
12月8日 10日
東京ビックサイト【東2-3ホール】
主催：（一社）リステック 協賛：日本経済新聞社

2021年12月8日～10日に、東京ビックサイトにおいて「エコプロ2021」開催。当協議会ブースでは新型コロナウイルス感染症対策を行い、ブース展示方法も来場者の密を避ける工夫をしながらわかりやすく3Rについてお知らせをしました。また、例年行っていたクイズ等は中止としましたが、来場記念用限定景品を配布しました。



日本ガラスびん協会からのお知らせ

大好評連載漫画
「びいどろ・コンチェルト」が
いよいよ最終話へ・・・

<連載場所>日本ガラスびん協会 Webサイト
びいどろ・コンチェルトコーナー内 (<http://glassbottle.org/glassbottlenews/comic>)

日本ガラスびん協会 Webサイトで連載中の「びいどろコンチェルト」が、いよいよ最終話を迎えます。これまでガラスびんの魅力を知る・伝える・気づく人達で沢山のストーリーが語られました。最終話では今まで登場した人たちがガラスびんをきっかけとし、その後、どのような変化があったのかをお伝えします。

